

前書き

「もうちょっとうまい言い回しが無いものか」

「季節感のある表現を入れたいけど思いつかない」

「手紙の書き出しがいつも同じ……」

「情景描写がちょっと雑だし、登場人物が似てくるし」

日々の生活や仕事、創作活動などにおいて、語彙の不足を感じることもあるでしょう。

いつもの表現からもう少し解像度を上げて、よりの確に表現したい、そんなときの手助けになるような「ことば探し」のための一冊があればと思い本書を企画いたしました。

日常生活に必要な基本的な言葉から、ちょっと気のきいた表現まで、おおよそ4,000項目を収録しています。全体を天候と天体・自然・人・色・時間と季節の五つに分け、それぞれに言葉を分類しました。簡潔な説明と使用例を添え、季語になるものは季節も示しました。巻末には索引を付し、連想からさらに語彙が豊かになることを期しました。

本書があなたの相談役となり、言葉があなたの味方になりますように！

伝えたいことがあるすべての人に——
さまざまな機会に皆さまのお役に立てば幸いです。

2022年10月 三省堂編修所

目次

前書き 3
この辞典の使い方 6

天

あかるい 10
くらい 13
あたたかい・あつい 15
さむい・すずしい 18
雨（降るさま） 20
雨（時間・季節） 23
風・嵐（吹くさま） 26
風・嵐（時間・季節） 29
雷 31
霧・霏 33
雲 36
雪・氷 39
霜・露 43
晴れる 46
空 49
太陽 52
月 54
星 59

地

光 64
火・炎 68
火・炎（人との関わり） 70
火・炎（燃える） 73
土 75
坂 78
野原 80
森・林 82
山 84
木・枝 88
鳥 92
草 95
花 98
石 101
川・湖 104
海 108
波 110
島 113

人

手 116
足 118
顔・頭 121
腹・背 127
目 130
鼻・耳 133
口・歯 135
髪 138
ひげ 142
眉 144
声 146

色

青 152
赤 154
茶色 156
黒・緑・紫 158
白・銀色 162
黄色・金色 164

時

春・新春 168
夏 170
秋 172
冬 174
朝・明け方 176
昼 178
夕・夕方 179
夜 180

さくいん 182

● 用例…よく使われる言いまわしを示す

こう ふう 晴れた春の日に吹く、気持ち
光風 よい風。
「一霽月かずら [=さわやかな風と晴れた月。わだかまりのない気持ちのたとえ]」

一は見出し部分を表します。
用例の解説を [=] で示しました。

● その他の表現…さらに語彙を豊かに

その他の表現

ストーン・ロック・ジュエル
ごつごつ・ごろごろ・ころころ・
どしと

その他にもあるさまざまな表現を末尾
に添えました。

雲

→ 雨 / 霧 / 霏 / 空

基本の表現

雲・雨雲

雲級

雲級 雲の分類方式。形・出現高度や発達の高さで分けたもの。

巻雲 高空に生じる、細い繊維状の雲。まきぐも。筋雲。絹雲。

巻積雲 高空にできる小さいまだらな雲。鱗雲。鯖雲。鱗雲。斑雲。

巻層雲 高空に広がる薄い白い雲。薄雲。

高積雲 まだらに浮かぶ白色または灰色の雲のかたまり。羊雲。斑雲。叢雲。

高層雲 空をおおう灰色がかかった薄い雲。臙雲。

積雲 晴れた日中に発達する白い雲。綿雲。

積乱雲 山のように垂直方向に発達した雲。夏に多い。入道雲。雷雲。夕立雲。雲の峰。

層雲 低い空で層状に霧のように広がる雲。霧雲。

層積雲 低い空に生じる灰色または白みがかかった雲。冬に多い。叢雲。叢雲。

乱層雲 空全体をおおう灰色の暗い雲。雨や雪をとまなう。

雨雲。雪雲。

雲

雲 あい たい 雲の厚いさま。

靉靆 「雲が一とたなびく」

暗雲 あん ぶん 今にも雨や雪が降ってきそうな、くらい雲。転じて、何か悪いことが起こりそうな気配。

「一が(立ちこめる・漂う)」

陰雲 いん ぶん 暗く空をおおう雲。

「一を吹き払う強風」

浮雲 うき ぶん 空に浮かぶ雲。

「一が西の空に流れていく」

薄雲 うす ぶん 薄く広がっている雲。

「一の隙間から月が見えた」

雲影 うん えい 雲の姿。

「東の空に一を見る」

雲煙 うん えん 雲と煙。転じて、雲と霞。

「一過眼(=物事に執着しない)」

雲海 うん かい 高山や飛行機から見える、一面に広がり海のような雲。[夏]

「一に浮かぶ竹田城」

雲彩 うん さい 雲のいろどり。

臙雲 おぼろ ぶん 高層雲の俗称。空一面に広がる雲で、雨の前兆とされる。

* 月や太陽にかかると、その姿がお

ぼろに見えることから。

風雲 かぜ ぶん 風が吹き始める前兆の雲。かぜくもともいう。

寒雲 かん ぶん 寒々とした雲。[冬]

「一が低く垂れこめる」

閑雲 かん ぶん 静かに浮かぶ雲。

「一野鶴を友とする(=悠々自由に暮らす)」

慶雲 きょう ぶん めでたいことの前兆となる雲。

「一が現れたとの記録が残る」

暁雲 ぎょう ぶん 夜明けの雲。

「一が(眩しい)」

霧雲 かり ぶん 霧のように広がった雲。

「一が尽きない」

雲合 くも あい 雲の様子。空模様。

「一を見る」

雲脚 くも あし 雲が流れ動く様子。また、垂

れ下がったように見える雲。

「一が速い」

雲の波 くも なみ 波のように重なっている雲。

雲の峰 くも みね 盛夏、山の峰のようにわき

立つ雲。[夏]

「一がむくむくと盛り上がる」

行雲 こう ぶん 空を行く雲。

「一流水(=執着せず自然に任せる)」

東雲 とう ぶん 明け方。また、明け方に東の

空にたなびく雲。

秋雲 しゅう ぶん 秋の雲。

曙雲 しょう ぶん あけぼの雲。

瑞雲 すい ぶん めでたい雲。鬪祥雲

「五彩一」

棚雲 たな ぶん 空一面に広がっている雲。「空には一がかかっていた」

凍雲 とう ぶん 雪を降らせそうな雲。

「空を一が覆う冬の日」

飛雲 ひ ぶん 空を飛んでいく雲。

「一鶴翔」

微雲 び ぶん わずかな雲。

「一天に一だにない」

飛行機雲 ひ こう き 飛行機の軌跡に発生

する細長い雲。

「夏の空に一が残る」

暮雲 ぼ ぶん 夕暮れの雲。

「美しい赤に染まる一」

密雲 みつ ぶん 厚く重なった雲。

「一に包まれた飛行機」

叢雲 むら ぶん 群がり集まった雲。村雲・群雲

とも書く。

「月に一花に風」

夕雲 ゆう ぶん 夕方の雲。

「沈む日に映える一」

夕立雲 ゆう たち ぐも 夕立の降るときに出る雲。

積乱雲。

「一がどんどん大きくなる」

雪雲 ゆき ぶん 雪を降らせる雲。[冬]

「厚い一に遮られて暗い一日」

妖雲 よう ぶん 不吉を予感させるような雲。

「一が漂う天下の形勢」

横雲 よこ ぶん 横にたなびく雲。

「空にはかすかに一が浮かぶ」

雷雲 らい ぶん 雷を伴う雲。かみなりぐもとも。

[夏]

「一のような真っ黒な煙」

乱雲 らん ぶん 乱れ飛ぶ雲。

「一の間から月光がさした」

雲の形

鼯雲 いたちぐも 積乱雲の異名。

一尺八寸 いっしやくはっすん 近世、笠雲の異名。
* 笠雲の直径が一尺八寸であるところから。

翹雲 いわしぐも 小斑点状に群がり広がった雲。
巻積雲。[秋]

* 漁師仲間で、イワシの大漁の前兆とするからとも、形がイワシの群れのように見えるからとも。

鱗雲 うろこぐも 巻積雲の俗称。
* 鱗が並んだように見えることから。

笠雲 かさぐも 高い山の頂にかかる笠状の雲。
「黒い一は風雨の前兆という」

鯖雲 さばぐも 巻積雲の通称。

千切れ雲 ちぎれぐも ちぎれちぎれの雲。
[空には少し一があるだけだ]

豊旗雲 とよはたぐも 旗がなびくような美しい雲。
「わだつみの一」

入道雲 いゅうどうぐも 積乱雲。[夏]
「一が出てきたと思ったらもう雷が鳴り出した」

* 大入道のように見えることから。
羊雲 ひつじぐも 羊の群れのように見える雲。
高積雲。

日照り雲 ひでぐも 夏の夕暮れに、西の空に出る巴^ひの形をした雲。晴天が続く前兆という。

八重棚雲 やえななぐも 幾重にも重なったなびく雲。

レンズ雲 ぐも 凸レンズを横から見たような形の雲。

漏斗雲 ろうとぐも 漏斗状に垂れ下がった雲。
竜巻が発生するときに見られる。

綿雲 わたぐも ちぎった綿のような雲。
「青空に浮かぶ一」

雲の色

茜雲 あかねぐも 朝日や夕日を受けて濃い赤色に照り映える雲。

黒雲 くろぐも 黒い雲。不吉な雲とされる。
「戦乱の一」

黄雲 こううん 黄色い雲。

紅霞 こうか 夕日に染まった紅色の雲。
「西の空の一がだんだん色を失う」

彩雲 さいうん 縁が美しく彩られた雲。

紫雲 しうん 紫色の雲。
* 仏が乗って来迎するとされる雲。

白雲 しらぐも 白い雲。はくうんともいう。

白小雲 しらまぐも 白く見える雲。

青雲 せいうん 青みを帯びた雲。また、青空。転じて、人から仰がれるような高い徳。

碧雲 へきうん 青みがかった色の雲。
「一の志^{こころ}」

その他の表現

クラウド

雪・氷

→ さむい・すずしい／雨／空／冬

基本の表現

雪・大雪・降雪・積雪・雪解け・氷・凍結・冷凍

降る雪

淡雪 あわゆき うつすらと積もった、やわらかで消えやすい春の雪。[春]

回雪 かいせつ 雪が風に舞うこと。また、巧みに袖を翻して舞うこと。

風花 かざはな 晴天にちらつく雪。また、冬の初めごろ、風と共に降る雪。[冬] 雪のこと。

玉屑 ぎょくせつ * もとは玉を砕いた粉末で、不老不死の仙薬という。転じて、詩文の優れた句にも。

銀雪 ぎんせつ 銀色に輝く雪。

豪雪 ごうせつ 多量な降雪。

小氷雪 ここめゆき 「一地域」

粉雪 こなゆき 粉のようにさらさらした雪。[冬] 「一が舞う」

小雪 こゆき 少しの雪。[冬]

細雪 ささめゆき 「一がちらほらする」

里雪 さとゆき 細かに降る雪。[冬]

霜雪 しもゆき 「一の降り敷く中、家路を急ぐ人々」

里雪 さとゆき 里に降る雪。特に日本海側の平野部に降る雪。[冬] 山雪

「一型の大雪」

春雪

春雪 しゅんせつ 春の雪。[春] 「草木の萌え出る高原に一が静かに降り積もる」

白雪 しらゆき 真っ白な雪。
「全山が一に覆われた」

瑞花 ずいか 雪の異名。
「今年は一に恵まれ、収穫が楽しみだ」

雪花 せつか 雪を花に見立てて言う語。雪華とも書く。

雪片 せつぺん 雪のひとひら。

早雪 そうせつ 「風が一を運ぶ」

早霜 そうせつ 例年より早く降る雪。

霜雪 そうせつ 霜と雪。

霜雪 そうせつ 「冬の一に耐えた草」

* 白髪のとえにも。

素雪 そせつ 白い雪。

素雪 そせつ 「玄冬一(=冬のとても寒いさま)」

太平雪 たいへいゆき 大きな雪片の春の淡雪。

俄か雪 にわかゆき 突然降ってきて、間もなくやんでしまう雪。

濡れ雪 ぬれゆき 水分が多く湿っぽい雪。

白魔 はくま 災害をもたらす大雪を魔物に例えていう語。

はつゆき その冬はじめて降る雪。〔冬〕
初雪 「今年の一は例年より早かった」

はなびらゆき 雪片が花びらのように大きな雪。
花卉雪

ひせつ 風に吹き飛ばされながら降る雪。
飛雪

ひせつ 雪が少し降ること。
微雪

ふうせつ 風と雪。また、風と共に降る雪。
風雪 「昨夜来の雨は一となった」

ふぶき 強い風を伴って激しく降る雪。〔冬〕
吹雪

ゆき 水気が多い雪。
べた雪 「一が降って道路がぬかるんでいる」

ぼせつ 夕暮れに降る雪。また、夕暮れの雪景色。
暮雪

ぼたんゆき 大きなかたまりで降る雪。〔冬〕
牡丹雪 *「[ばた雪]を美化した表現。」

もちゆき 餅のようにふわふわした雪。
餅雪

やまゆき 山に降る雪。囿里雪
山雪

ゆうせつ 雪がとけること。とかすこと。
融雪 「幹線道路には一装置が設置してある」

ゆきげ 雪が降りそうな空模様。
雪気 「一の空」

ゆきし まき 雪が激しく降って風の吹きまくること。〔冬〕
雪風巻

ゆきは 涅槃会^{ねはん}の頃に降る雪の果て
雪の果て という、その冬最後の雪。雪の別れ。名残の雪。忘れ雪。〔春〕

ゆきぼうし 大片の雪。
雪帽子

ろっか 雪の異称。りっかとも。
六花 *雪の結晶の形にちなむ。

わたゆき 綿をちぎったような大きな雪片の雪。〔冬〕
綿雪

積もった雪

うすゆき 薄く降り積もった雪。
薄雪 「いつの間にか降った一を踏んで家路につく」

かたゆき 薄く積もった雪。また、一片が薄くて大きな雪。
帷子雪

かたゆき 春、解けかかった雪が夜間に冷えて固く凍りついたもの。
堅雪

かんせつ 山の頂が雪をかぶること。
冠雪 「一を頂く初冬の山々」

ざらめゆき ざらめ糖粒の積雪。日中解けた雪が、夜に再び凍り、それを繰り返すうちに大きい粒子となったもの。
粗目雪

ざんせつ (春になっても)消え残った雪。〔春〕
残雪 「この山はまだ残雪が深い」

しずゆき 屋根や木の枝から落ちる雪。〔冬〕
垂り雪

しゆくせつ 消えないで残った雪。
宿雪 「夏になってようやく一が消えた」

しんせつ 新しく降った雪。
新雪 「一に輝く山々」

しんせつ 深く積もった雪。みゆき。
深雪 「林野を覆う一」

たいせつ 積もった雪。
堆雪 「一の下で懸念に生きる雑草」

なだれ 山の斜面に積もった雪が大量に崩れ落ちる現象。〔春〕
雪崩

ねゆき 雪解けまで残る雪。〔冬〕
根雪 「昨年からの一が残っている」

ふすまゆき 一面に降り積もった雪。
衾雪

まだらゆき まだらに降り積もった雪。はだれゆき。
斑雪

まんねんゆき 高山などの一年中消えない雪。
万年雪 「一におおわれた山々」

ゆきしろ 雪解けの水。〔春〕
雪代 「一水」

ゆきはだ 積もった雪の表面。また、雪のように白い肌。
雪肌 *「雪膚^{ゆきはだ}」は雪のように白い肌。

ゆきみず 雪解け水。
雪水 「下着まで一に濡れて凍え死にそうだ」

わなぼうし 山や木の上に積もった雪。
綿帽子 *真綿を広げて作った女性のかぶり物に見たてていう。

氷

あつごおり 厚く張った氷。〔冬〕
厚氷 「池には一が張っている」

ひょうりゅう 雨が木・地面などに触れた瞬間、氷となったもの。〔冬〕
雨氷

うわごおり 表面に薄く張った氷。
上氷 「高瀬さす淀の汀^{つら}のうはこほり(曾瀬好忠)」

ぐんひょうりゅう 群をなす海水。
群氷

けつびょう 氷が張ること。
結氷 「湖が一する」

ほんびょう つらら。
懸氷

けんびょう 堅く張った氷。
堅氷 「鉄のスコップでも一を砕けなかった」

さいひょう 空気中の水蒸気が微細な氷の結晶となって大気中を降下する現象。ダイヤモンドダスト。
細氷

じゆひょう 霧氷の一種。微小な水滴が木の枝に凍り付いて、花のようにみえるもの。〔冬〕
樹氷

せつびょう 雪と氷。
雪氷

たなごおり 氷床の縁部が海上に張り出しで浮いている氷原。
棚氷

たるひ つらら。
垂氷 「月に光る一」

つらら 水のしずくが凍って棒状に垂れ下がったもの。〔冬〕
氷柱

なつごおり 山などに、夏になっても溶けないうで残っている雪や氷。
夏氷

ほくひょう 薄く張った氷。
薄氷 「一を踏む思い」

はつごおり その冬に初めて張った氷。〔冬〕
初氷 「今朝一が張った」

ひさめ ①雷^{かみかみ}。〔夏〕
氷雨 ②秋の冷たい雨。「冷たい一で体が冷え切った」

ひむろ 天然の氷を夏まで保存しておくために設けた小屋、または穴。〔夏〕
氷室

ひもかがみ 氷の表面を鏡に例えた語。〔冬〕
氷面鏡

ひょうか 樹木や草に水分が凍り付き、白い花を付けたようになる現

象。氷の花。

「白く一に覆われた並木道」

氷河 高山などの万年雪が堆積してできた越年性の巨大な氷体で、

重力によって流動するもの。

「一時代」

氷塊 氷の塊。

「北極海に浮かぶ一」

氷海 一面に氷が張った海。

「極地の一を航行する」

氷結 氷が張ること。

「池が一した」

冰山 海中に浮かぶ小山のような氷塊。

塊。

* 氷河などから分離したもので、海面上の部分は全体のごく一部にすぎない。

氷晶 大気が冷却されてできる微細な氷の結晶。

氷雪 氷と雪。また、清廉潔白なこと。

「一の操」

氷霜 氷と霜。また、樹枝に積もって氷がついているように見える霜。

氷片 氷のかけら。

氷野 氷に覆われた野原。

「南極の一」

浮氷 水に浮かんでいる氷塊。

「一がぶつかり合う」

冬氷 冬に凍った氷。

水氷 水が凍結してできた氷。

霧氷 水蒸気や霧が樹枝などに凍り付いたもの。[冬]

流氷 海面を漂流している氷塊。[春] 「一の上に留まるオオワシ」

そのほかの降ってくるもの

霰 水蒸気が氷の粒になって降ってくるもの。[冬]

* 気象用語では直径5mm未満のもの。

急霰 にわか降るはげしい霰。また、その音。

春霰 春に降る霰。

霰 雷雨に伴って降る氷の粒。[夏]

雹 * 気象用語では直径5mm以上のもの。

霰 雪が空中でとけかけて雨交じりに降るもの。[冬]

その他の表現

アイス・アイスパーン・スノー・ダイヤモンドダスト・バージンスノー・パウダースノー・フリーズ・プリザード

からっ・こんこん・さらさら・しんしん・ちらちら・どかどか・どさっと・はらはら・パラパラ・ヒヤヒヤ・ふわっと・ふわりと

かちこち・かちんこちん・ぱりっ

霜・露

→ さむい・すずしい／雪・氷／冬

基本の表現

霜・春霜・夕霜・露・秋露・朝露・夕露・夜露

霜

朝霜 朝降りている霜。

「庭にまだ一が残っている」

朝霜 朝、薄く降りた霜。

薄霜 「山では夏でも一の降りることがある」

大霜 たくさん降りた霜。[冬]

「一で一面白くなっている」

遅霜 晩春・初夏の季節外れの霜。

凝霜 雨滴が氷となり、植物や岩石

をおおったもの。

凝霜 明け方の霜。

暁霜 「一を踏んで学校へ向かう」

厳霜 草木を枯らす厳しい霜。また、

刑罰が厳しいこと。

降霜 霜が降りること。また、その霜。

降霜 「一結氷」

霜風 霜の上をわたってくる冷たい

風。

「身を切るように冷たい一」

霜崩れ 霜柱が解けてくずれること。

霜先 寒くなりはじめ、霜が降りだす

10月ごろ。

霜量 量のように一面に降りた霜。

霜量 「寒い朝で畑が一になった」

霜月 陰暦11月の異称。

「一祭り」

霜解け 気温が上がって霜が解けること。[冬]

「一のぬかるみ」

霜の声 霜の降りたときのしんしん

とした様子。

「一が聞こえるほど静かな夜」

霜柱 地中の水分が地面にしみ出て

凍結した細い氷の柱。[冬]

「一を踏む音がサクサクいう」

霜焼 ①寒さによって手足などにお

こる凍傷。しもばれ。ゆきや

け。[冬]

②植物が霜によって変色すること。

秋霜 秋に降りる霜。転じて、刑罰

などが厳しいこと。

「一烈日(=刑罰や権威などが厳しい)」

終霜 一年で最後の霜。

「一日」

肅霜 冷たい霜。

樹霜 空中の水蒸気が木の枝で霜の

結晶となったもの。

青女 霜や雪を降らす女神。転じて、

霜や雪。

「一の降りた冬の朝」

霜華 そう か 霜を花にたとえていう語。転じて白髪。

霜気 そう き 霜の厳しい冷気。

霜晨 そう しん 霜の降りた朝。

霜雪 そう せつ 霜と雪。また、白髪のとえ。

霜天 そう てん 霜の降りた冬の空。

霜露 そう ろ 霜と露。また、はかないこと。「一の疾（＝寒さによりおこる病気）」

初霜 はつ しも その冬の最初の霜。〔冬〕「寒くなってきて、昨日は一が降りた」

早霜 はや じも 秋早くに降りる霜。「まだ秋だというのに一が降りた」

斑霜 はん そう まばらに降りた霜。はだれしもともいう。「一の降りる寒い朝」

繁霜 はん そう 厳しい霜。また、真っ白になった毛髪。

晩霜 ばん そう 4、5月になって降りる霜。「おそじも」とも。「一で、畑が壊滅的な被害を受けた」

氷霜 ひょう そう 氷と霜。また、樹枝に降り積もった霜。

水霜 みず そう 晩秋に露が凍って霜のようになったもの。〔秋〕「一に濡れたスキの穂」

別れ霜 わか じも 春に降りる最後の霜。忘れ霜。名残の霜。〔春〕「一庭はく男老いにけり（正岡子規）」

露

朝顔の露 あさ がお つゆ 朝顔の花に降りた朝露。はかないものたとえに用いられる。

雨露 あめ つゆ 雨と露。うろとも。「一をしのぐ」

一露 いち ろ ひとしずくの露。* 禅などでは、「万物の根本になる最高の精神」の意も。

飲露 いん ろ 露をのみこと。神仙の生活をいう。

雨露の恵み う ろ めい 自然の雨や露が与える温かい恵み。

上露 うわ つゆ 草木の葉の上の露。 罎下露

薤上の露 かいじょう ろ 薤（＝）の葉の上の露は消えやすいところから、人の世のはかなさや、人の死を悲しむ涙をいう語。薤露がとも。

寒露 かん ろ 二十四節気のひとつ。太陽暦では10月8日ごろ。また、晩秋から初冬の頃の冷たい露。〔秋〕「冷霧一」

甘露 かん ろ 中国の伝説で、仁政が敷かれると天下が太平になると天が祥瑞として降らせるという甘い露。おいしいこと。「ああ、一、一」

菊の露 きく つゆ 菊に宿る露。飲むと長生きになると言われた。菊の雫。

木の下露 き した つゆ 木の枝から落ちる露。

曉露 ぎょうろ 明け方、草木に降りた露。朝露。

「一を踏み分けながら進む山道」

玉露 ぎよくろ 玉のように美しい露。転じて、最高級の煎茶。「一を置く庭の千草」

草葉の露 くさば つゆ 草の葉の上にとどまつた露。はかないもの例え。草露が。「一と消える」

結露 けつろ 露が生じること。「窓ガラスに一する」

月露 げつろ 月と露。転じて、自然。

行露 こうろ 道ばたの草などに降りた露。

言葉の露 ことば つゆ 言葉、特に和歌を露に例えて、美しさ、はかなさをいう語。 木の下などの露。

下露 した つゆ 罎上露

「一に足を濡らしながら林道を行く」

松露 しょうろ ①松の葉に降りる露。 ②海岸の松林で採れる小形のキノコの名。

白露 しら つゆ 光って白く見える露。〔秋〕「一や茨の刺にひとつづ（与謝蕪村）」

朝露 あさつゆ 朝、草葉などにたまった露。「早朝の森を歩き一にしとどに濡れた」

露時雨 つゆ しぐれ 時雨が通り過ぎたあとのように、露があたり一面に降りること。〔秋〕

露霜 つゆ じも 露が凍って霜のようになったもの。水霜。〔秋〕「一の置く朝だった」

露の玉 つゆ たま 露の美称。「草の先に一が光っている」

凍露 とうろ 露が凍ってできた氷粒。

風露 ふうろ 風と露。

山下露 やました つゆ 山の木々の枝葉から落ちる露。

露華 ろ か 露のきらめくこと。美しい露。「見慣れた庭が、一に覆われて光っている」

露玉 ろ ぎよく 露を玉に見なしている語。

露珠 ろ じゆ 露を玉に例えた言い方。「このままの形で飾りたいほどの一だ」

その他の表現

デュー・デュードロップ・フロスト
しんしん・さくさく・ざくざく・ぱりぱり・ぱりぱり・ぱりっと・ぼたりと・しっとり